

第7回研究集会

第5号通信

新時代のアセスメント～認知特性と適応の視点から～



あけましておめでとうございます。

日本LD学会第7回研究集会第5号通信(新春特大号)をお届けいたします。今号は、シンポジウム指定討論でご登壇くださる藤野博先生のご紹介とインタビュー、会場周辺情報(書店街)について特集いたします。



登壇者紹介 ④

シンポジウム指定討論: **藤野博先生** (東京学芸大学教授)

藤野先生は、東京学芸大学の特別支援教育高度化プログラムで教鞭をとっておられます。ご専門の領域は、言語・コミュニケーションの障害であり、言語聴覚士としてご活躍されていたこともあります。言語の発達と心の理論(他者の意図や気持ちを理解する力)との関係などについてご研究されており、発達障害の中でも特にASD(自閉スペクトラム症)児の理解と支援についての論文やご著書が多数あります。研究者と臨床家の2つの視点をお持ちになる藤野先生に、今回のシンポジウムで指定討論者としてご登壇いただくことで、議論がより深まることと思います。



プログラム	
10:30 10:40	開会挨拶 小林玄(東京学芸大学)
10:40 11:40	基調講演 上野一彦(東京学芸大学名誉教授)
12:40	シンポジウム 新時代のアセスメント～認知特性と適応の視点から～ 話題提供 ・WISC-V 大六一志(元筑波大学教授) ・KABC-II 小野純平(法政大学教授) ・Vineland-II 黒田美保(田園調布学園大学教授) ・ASIST学校適応スキルプロフィール 橋本創一(東京学芸大学教授) 指定討論 上野一彦(東京学芸大学名誉教授) 藤野博(東京学芸大学教授)
16:10 16:20	閉会挨拶 橋本創一(東京学芸大学)

【発達障害に関わるご著書・論文等】

- ・「自閉症のある子どもへの言語・コミュニケーションの指導と支援」(明治図書)
- ・「自閉スペクトラム バディ・システムスタートブック:仲間づくりとコミュニケーションの支援」(学苑社)
- ・「コミュニケーション発達の理論と支援」(金子書房)
- ・「発達障害のある子の社会性とコミュニケーションの支援(ハンディシリーズ-発達障害支援・特別支援教育ナビ)」(金子書房)
- ・「自閉スペクトラム症児における言語表現の選好性:丁寧さと詳細さの観点から」東京学芸大学紀要. 総合教育科学系 74 2023
- ・「自閉スペクトラム症における特別な興味:研究の動向と展望」東京学芸大学紀要. 総合教育科学系 72 2021



藤野先生には、
シンポジウムの指定討論でご登壇いただきます

藤野先生 インタビュー

Q1) 藤野先生は、どのようなきっかけから発達障害のご研究を始められたのでしょうか。

私はもともと医療機関で言語聴覚士をしていました。今から30年以上前のことになります。大学病院で言語臨床をしていたときに言語発達障害、自閉症、読み書き障害などの子どもたちに出会い、言語機能とともに、それを支える認知やコミュニケーションの発達と支援法を研究することの奥深さを知ったことがきっかけといえましょうか。

Q2) 発達障害の理解と支援に関して、この30年ほどの間に大きな進歩があったと思いますが、まだまだ課題も多く残されていると思います。発達障害児への支援教育における現在の課題はどのようなものとお考えですか？

発達障害の理解と支援の重要性は世の中に広く知られるようになったと思いますが、定型発達に近づけることだけを目指す考えや取り組みはまだ根強く残っているように思います。発達障害のある子どもたちのスタイルを尊重し、「強さ」に基づくアプローチについて、基礎研究と実践がさらに深められるべきだと考えます。

Q3) 藤野先生は、発達障害児の中でも特にASDのご研究をされていらっしゃいます。ASD児の魅力について、語っていただきたいと思います。

ASDの研究では、目に見えない他人の心がどうして分かるのかという哲学的でもある問題に真正面から向き合うことができ興味を尽きません。また、「木を見て森を見ない」認知特性をもつと言われるASDの子どもたちの世界認識の新鮮さや豊かさにはいつも驚かされます。

Q4) 大学をはじめ高等教育の場にも、現在はASDの学生が多く在籍しています。本人なりに適応できているケースもありますが、学生生活に苦戦している学生もいます。また、二次的な障害として抑うつ状態になっている場合もあります。そこで、成人に達するまでの小・中・高等学校の期間に、どのような指導や支援があるとよいとお考えですか？(会員の皆様の中には、学校の先生方も多くいらっしゃいますので、是非お聞かせください)

ASDの人たちの精神的健康の問題では、過剰適応やカモフラージュが目立っています。周囲に合わせようとし過ぎて心の健康を損なうという問題です。ASD研究では「自閉的共感性 (Autistic Empathy)」の仮説が話題になっています。ASDの人は同じ特徴をもつ人には共感が生じるという学説です。この仮説から示唆されることは、ASDの子どもたちが集い、好きなことができる場があると、コミュニケーション経験や他児からの自然な承認が得られ、それを通して社会性の発達や精神的な健康にプラスの影響があるかもしれないということです。家庭、学校に次ぐ第三の場「サードプレイス」とも言いますが、地域にそういった場があるとよいと思います。学校でも通級などでそのような場は作れるかもしれませんが。

Q5) 研究集会のテーマである「新時代のアセスメント」とは何か藤野先生のご見解をお教えてください。

私がそれについて語るのはおこがましいのですが個人的な見解を少し述べます。強さに基づくアプローチを推進する場合、子どもの強さや良さ、興味・関心などについて非認知能力も含め包括的に把握できるアセスメントが重要になると思います。ギフテッドの教育にも関係しますが、認知特性のみならず特定の分野・対象への並外れた集中力(「こだわり」と呼ばれることもあります)につながる興味・関心の在り方や方向性を知ることがとても大事だと考えています。

藤野先生、ありがとうございました。



神保町は書店街として有名です。東京でもっとも本屋が集まっているエリアと言って良いでしょう。インターネットで書籍を注文することが当たり前になりつつある現代においても、神保町は健在です。古書店から大型書店まで、様々な本屋が軒を並べています。今回は、その中でも、大型書店をいくつかご紹介しましょう。

①三省堂書店 神保町本店

いわずとした三省堂です。1000坪ある店舗は、さながら本のデパートです。医学書の品揃えも豊かで古書コーナーもありますから、三省堂だけで全てのニーズに応えることができそうです。

②東京堂書店 神田神保町店

店舗面積は三省堂のおよそ半分ですが、一見北欧風の店構えが神保町の老舗書店の風格を表し、作家や出版業界の人々に好まれる品揃えです。フロアも「人間の未来を読むフロア」「人間の活動を掴むフロア」「人間の思考を辿るフロア」と名付けられており、只者ではない印象を醸し出しています。

③書泉グランデ

「書店」ではなく「書泉」と謳っているところからしてこだわりとプライドが感じられます。店舗は地下1階から地上6階まであり、1日いても飽きません。総合書店として守備範囲が広い品揃えですが、中でもサブカル系やホビー系の品揃えはマニアも唸らせます。

研究集会の余韻に浸りながら書店街を散策してみませんか？



事務連絡

第1号通信にてお知らせしました情報を再掲いたします。

《日程》2024(令和6)年1月21日(日曜日) 《会場》日本教育会館 一ツ橋ホール +オンデマンド

《研究発表(ポスター発表)》 オンデマンド配信 《参加費》5,000円

《参加申し込み》

会場参加(定員700名) 2023年9月20日(水)~2024年1月5日(金)
オンデマンド 2024年1月11日(木)~2024年2月12日(月)

会場参加の申込み
メ切が迫っております

参加費の納入期限 会場参加:2024年1月10日(水) オンデマンド:2024年2月12日(月)

※「参加費の納入」をもって、申し込み完了とします。

お申込みはこちらから → <https://conference.wdc-jp.com/jald/ws2023/participant>

《特別支援教育士(S.E.N.S, S.E.N.S-SV)資格更新ポイントのお知らせ》

特別支援教育士資格更新規程に基づいてポイントが付与されます。

領域:特別支援教育士資格更新規程第2条V領域 ポイント数:参加者…2P

本研究集会の参加者ポイントについては、・会場参加の方:会場受付での来場確認・オンデマンド参加の方:オンライン会場へのログイン記録をもとにして運営事務局から特別支援教育士資格認定協会に申請します。

次号の登壇者紹介はシンポジウム話題提供者の黒田美保先生です。ご期待ください。
この研究集会が、皆様にとって充実した学びの機会となること実行委員一同願っております。

